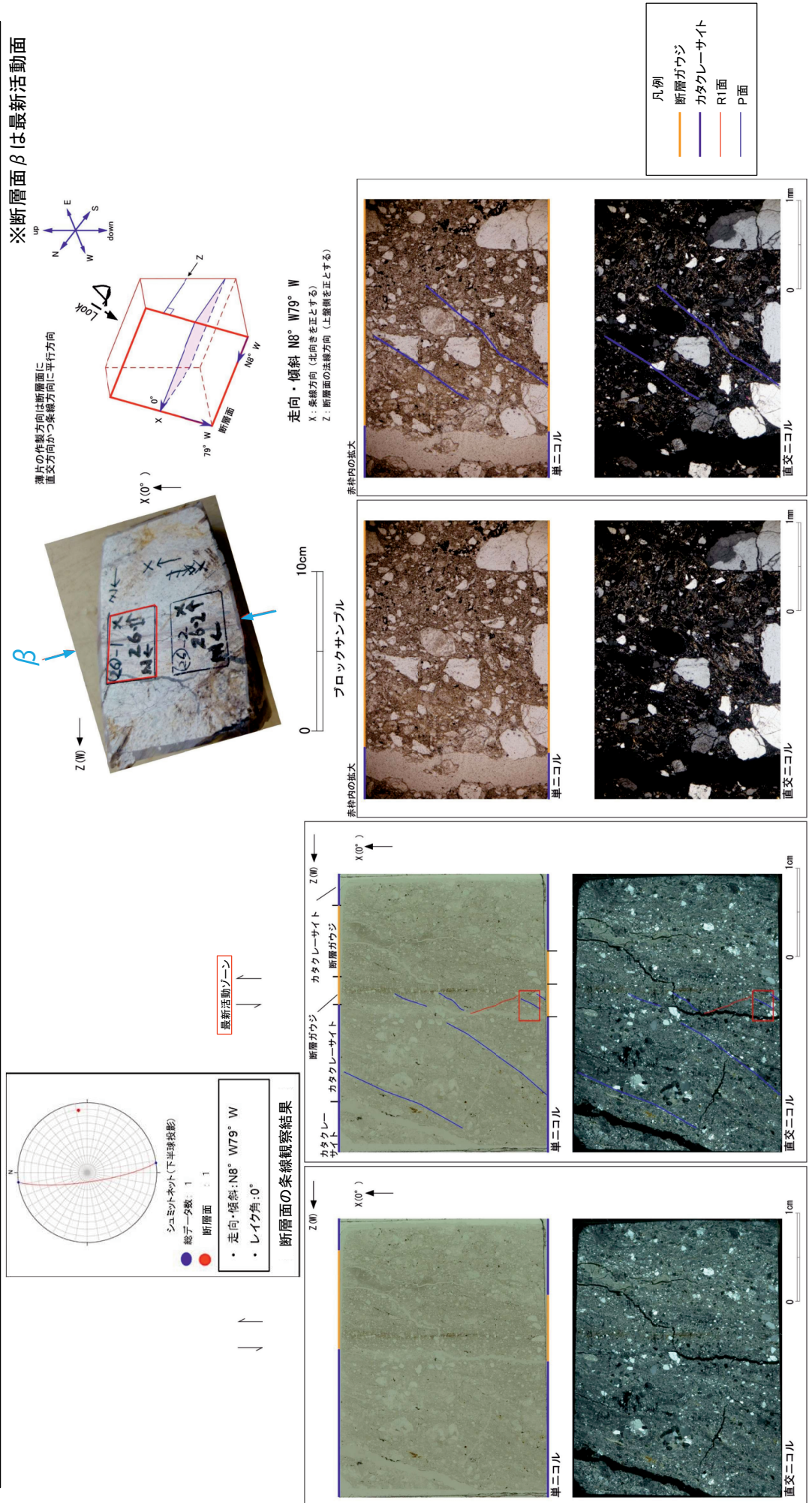
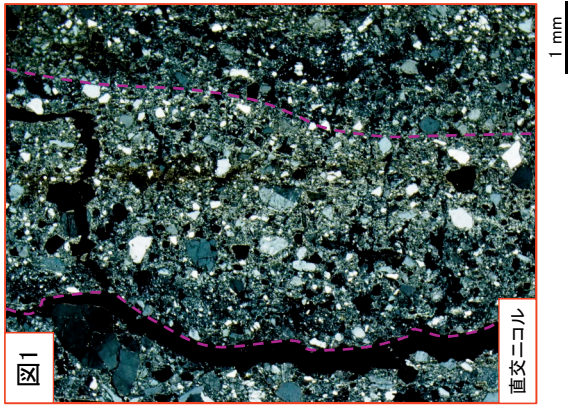
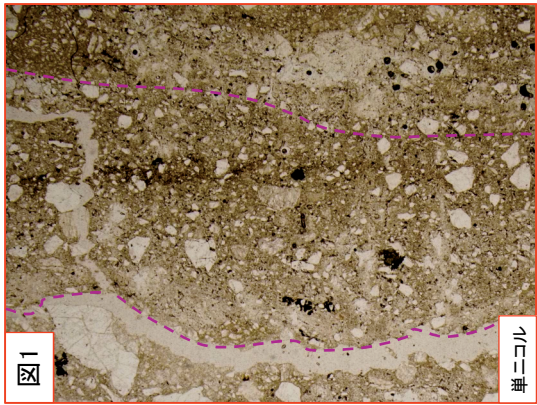
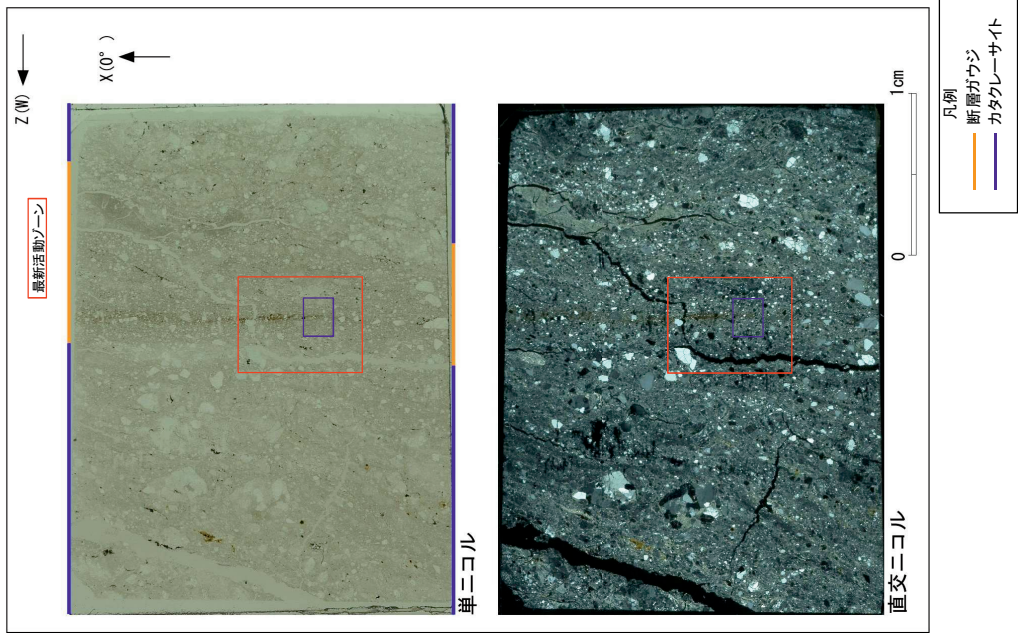


・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

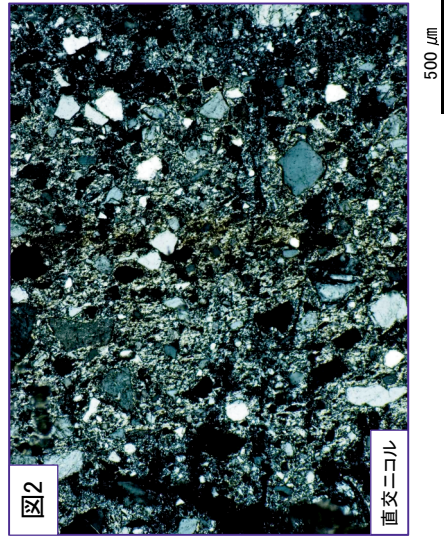
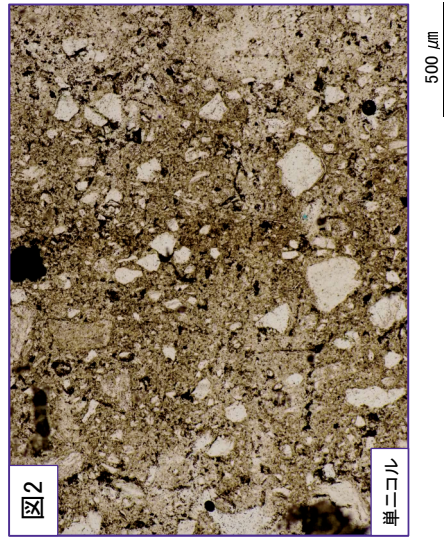
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



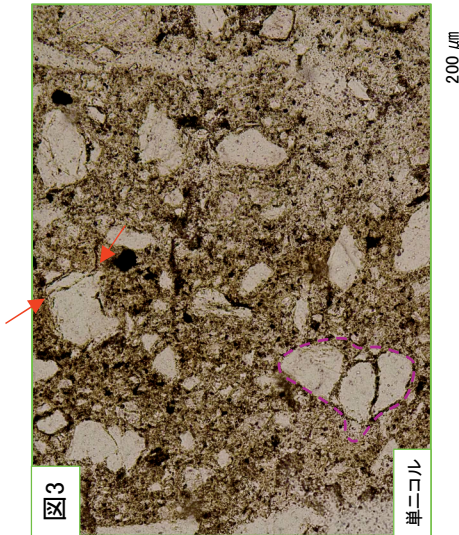
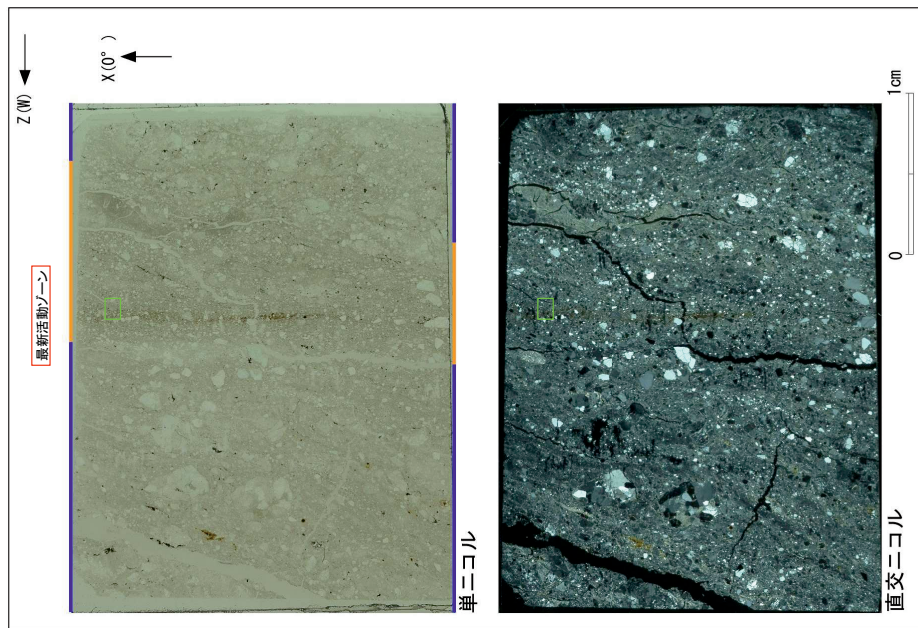
破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



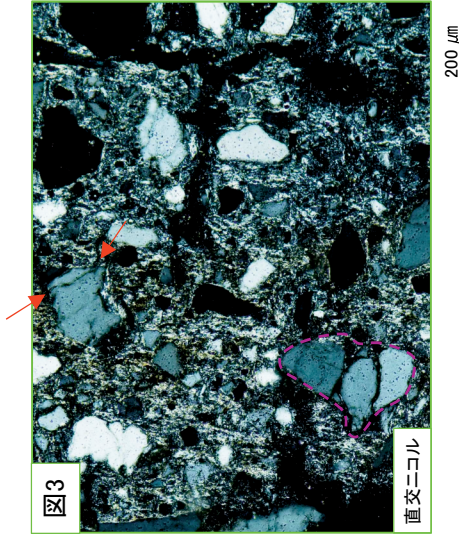
第7.4.4.286図 (4)

破碎部性状 H27-B-2 深度54.72～54.77m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



(肉眼観察結果 深度54.77m)

- ・ 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - ・ 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - ・ 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - ・ 岩片は少ない。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ・ 角ばった岩片が多い。
 - ・ 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - ・ ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.3	無

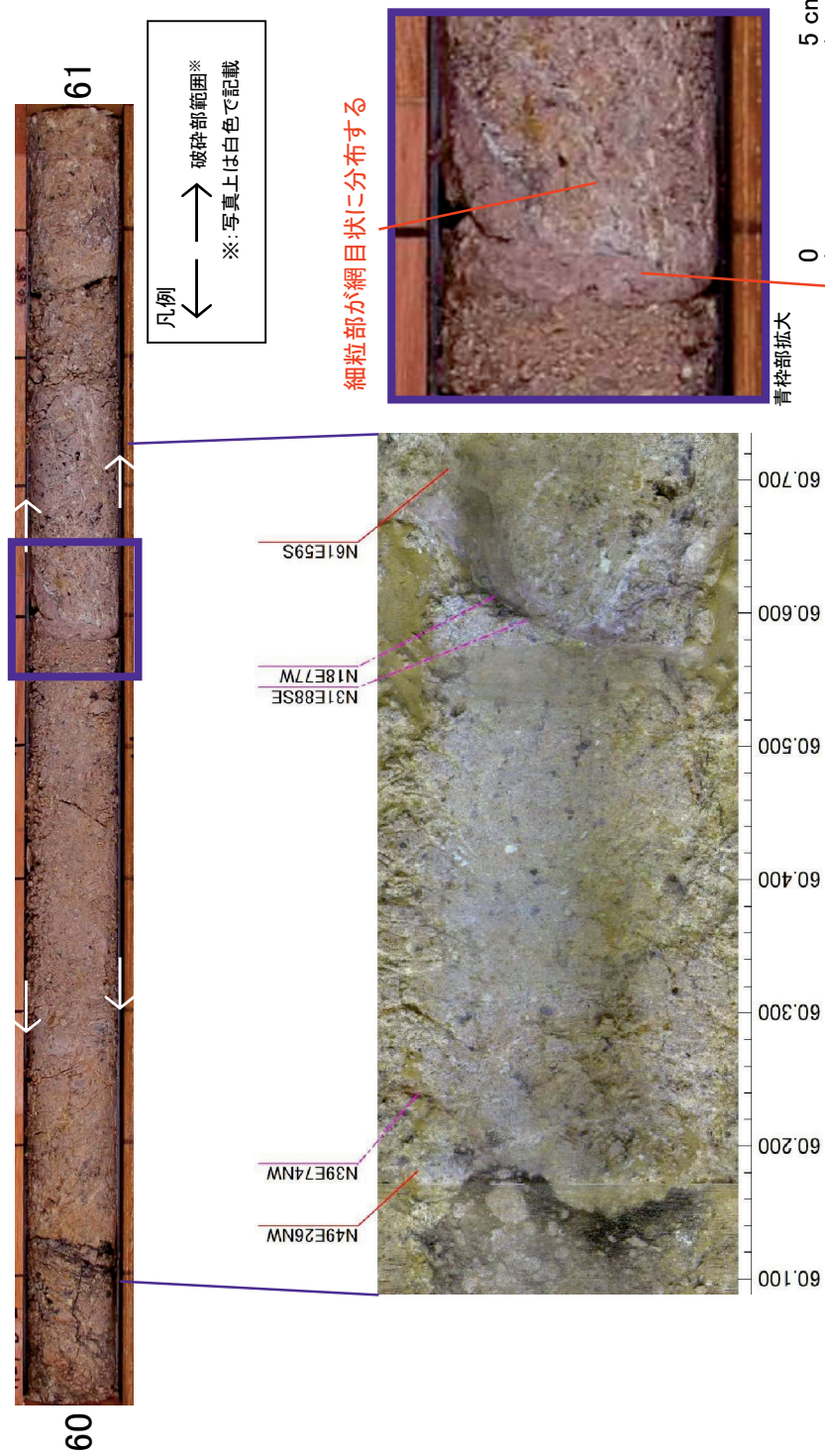
*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度60.26～60.58mの「礫質砂状」と記載の箇所については、コアでは機械割れで礫質砂状を呈するが、BHTV孔壁展開画像では、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。また、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、上位の健岩部との境界も漸移的で直線的に乏しい。これらのことからカタクレーサーサイトであると判断した。
- ・深度60.58～60.59mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、粘土の境界面は波打ち直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサーサイトであると判断した。
- ・深度60.59～60.69mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●60.26～60.69m：破砕部
 60.26～60.58m：礫質砂状部 (Hj)
 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5～10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状化部からなる。下端側に下位のHc-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。機械割れで全体が礫質砂状化している。にぶい黄橙色を呈する。
 60.58～60.59m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜18°で上下端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。軟質。明褐色を呈する。幅10～12mm。
 60.59～60.69m：粘土混じり礫状部 (Hj)

コア写真

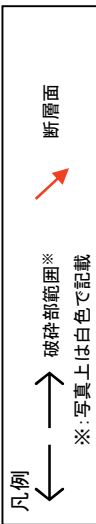


BHTV孔壁展開画像

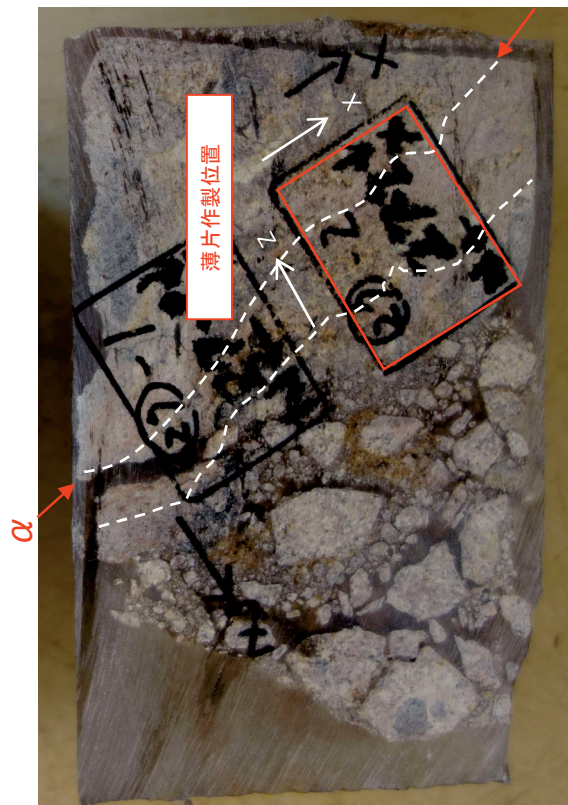
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

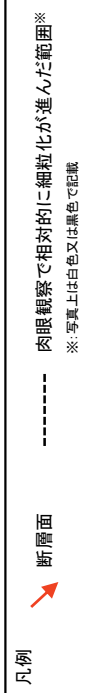
※断層面 α は最新活動面



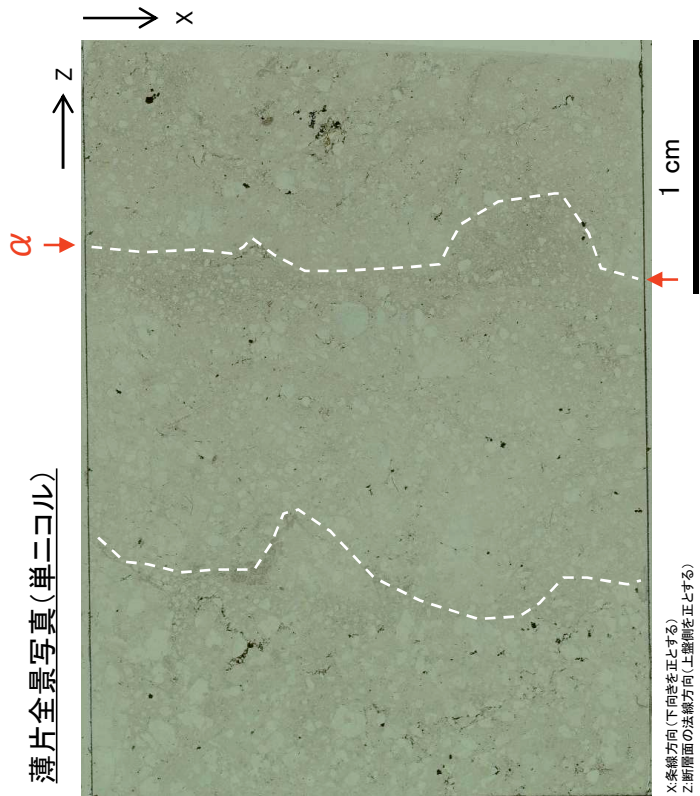
薄片作製位置写真



X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)
※切断面に記載されている方向は誤り



薄片全景写真(単ニコル)



X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

第7.4.4.287図 (2) 破碎部性状 H27-B-2 深度60.26~60.69m (薄片作製位置)